

# 日本人 AngleⅡ級 2 類不正咬合と永久歯先天性欠如との関連性

杉山 佳菜子

## 論文内容の要旨

日本では発現が稀な AngleⅡ級 2 類不正咬合と永久歯先天性欠如との関連は明らかになっていない。そこで本研究では AngleⅡ級 2 類不正咬合群 (Ⅱ/2 群) 68 名と一般的な不正咬合を有する対照群 504 名について、パノラマエックス線写真と口腔模型を用い、第三大臼歯を除く永久歯先天性欠如との関係を評価した。また、第三大臼歯先天性欠如について、Ⅱ/2 群で同欠如を有する 65 名と対照群 331 名について分析した。欠如が認められた被験者および各歯種における頻度を算出し、両群間で比較検討した結果、以下の結論を得た。

1. 第三大臼歯を除く永久歯先天性欠如の頻度はⅡ/2 群では 22.1% で、対照群の 8.7% に比較して有意に高かった。
2. 第三大臼歯を除く永久歯先天性欠如の頻度が高かった歯種は、両群ともに下顎側切歯と下顎第二小臼歯であった。
3. 第三大臼歯先天性欠如の頻度はⅡ/2 群では 46.2% で、対照群の 29.3% に比較して有意に高かった。
4. 1 歯または 2 歯の第三大臼歯先天性欠如の頻度はⅡ/2 群が有意に低く、3 歯または 4 歯ではⅡ/2 群が有意に高かった。

以上のことから、日本人 AngleⅡ級 2 類不正咬合は、一般的な不正咬合と比較して永久歯先天性欠如の頻度が有意に高いという特徴を示すとともに、その発現には、遺伝性が関与する可能性が示唆された。

## 論文審査の要旨

本邦では AngleⅡ級 2 類不正咬合は発現頻度が低く、環境的要因などが原因として挙げられているが、未だ不明な点が多い。本研究は、日本人 AngleⅡ級 2 類不正咬合における永久歯先天性欠如の頻度と発現部位の分布を調べ、一般的な不正咬合と比較したものである。その結果、先天性欠如の頻度が高いこと、および発現部位の分布が、欧米人と比較し日本人の特質を示しており、遺伝性や人種の要因につながる可能性を明らかにしている。

以上のことは、日本人 AngleⅡ級 2 類不正咬合の診断に対する重要な情報を与えており、歯学に寄与するところが多く、博士 (歯学) の学位に値するものと審査する。

主査 荻部洋行

副査 佐藤 巖

副査 代居 敬

## 最終試験の結果の要旨

杉山佳菜子に対する最終試験は、主査 荻部洋行教授、副査 佐藤 巖教授、副査 代居 敬教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。